

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2018年度 助成者)

作成日 2018年8月22日

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 氏名 (フリガナ) | 國廣祐公子 |
| 研修先機関名 | Hawaii Tokai International College |
| 研修期間 | 2018年8月13日 (月) ~ 8月18日 (土) |
| 大学名 | 東京大学 |
| 学年 | 5年 |

プログラムを終え、日本への帰路へつく飛行機内でこの文章を書いています。

今プログラムは五日間という短い期間のものでしたが、自らの成長を感じ、とても充実した気持ちです。特に大きな成長を感じるのは英語での問診、ケースプレゼンテーション能力の向上です。聞くところによると病名診断は問診で7割がた決まるそうです。このことから、将来医師として貢献できるようになるためには、患者さんから問診で多くの情報を引き出し、それを論理的に解釈して他者に伝える能力を高めることは必要不可欠でしょう。毎晩、模擬患者役のハワイ大学の学生さんにひたすら問診をし、それが終わればすぐにプレゼンとしてまとめ、ハワイで活躍しておられる多くの現役医師の方にマンツーマンで発表し、アドバイスをいただくということを繰り返し行いましたが、最終日には初日と比べ確実に力が伸びたことを実感しました。とても貴重な経験をさせていただいたと、改めて感謝したいと思います。

また、レクチャーなどではもちろん英語表現に関しても多くのことを学びましたが、患者さんへ与える印象を考え、良い関係を築く方法など今までなかなか教育を受ける機会のなかった内容についても教えていただき、その内容あるいはそれをクラスで教育していること自体もとても新鮮に感じました。

今プログラムで得たもう一つの大きな収穫は、これから医師として貢献できるようになるために、どのように勉強していくべきなのかという指針を得られたということです。ハワイ大学医学部の教育内容を聞いて大きく驚きました。座学の講義はほとんどなく、少人数グループで互いに調べあい、臓器系統ごとに解剖、生理、組織、病理などを一挙に学ぶそうです。自らが疑問を持ち能動的に学習すれば、それはその先ずっと身についた生きた知識になるだろうと感じましたし、実際ハワイ大の一、二年生とも話す機会がありました。医学知識がかなり豊富だという感触を得ました。私はいま五年生で、残り一年半の学生生活を、各科を回る臨床実習という形式で過ごすわけですが、その間の過ごし方、勉強の仕方次第で伸び方は大きく変わってくると思います。今回のプログラムでは成長も感じましたが、それと同時に自分の力不足もひしひしと感じました。この、痛みにも似た強烈な感覚を忘れず、これから残された学生生活を必ず充実したものにさせ、学業的にも人間的にも大きく成長していきたいと考えています。

最後に、互いに語り合い励まし合った大切な仲間たち、自らの経験知識を余すことなく伝え教育しようとしてくださった小林先生をはじめとする多くの先生がた、プログラムへの参加を手助けしてくださった日米医療財団の方々へ感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。